

## 06 「DOS メニュー作り」

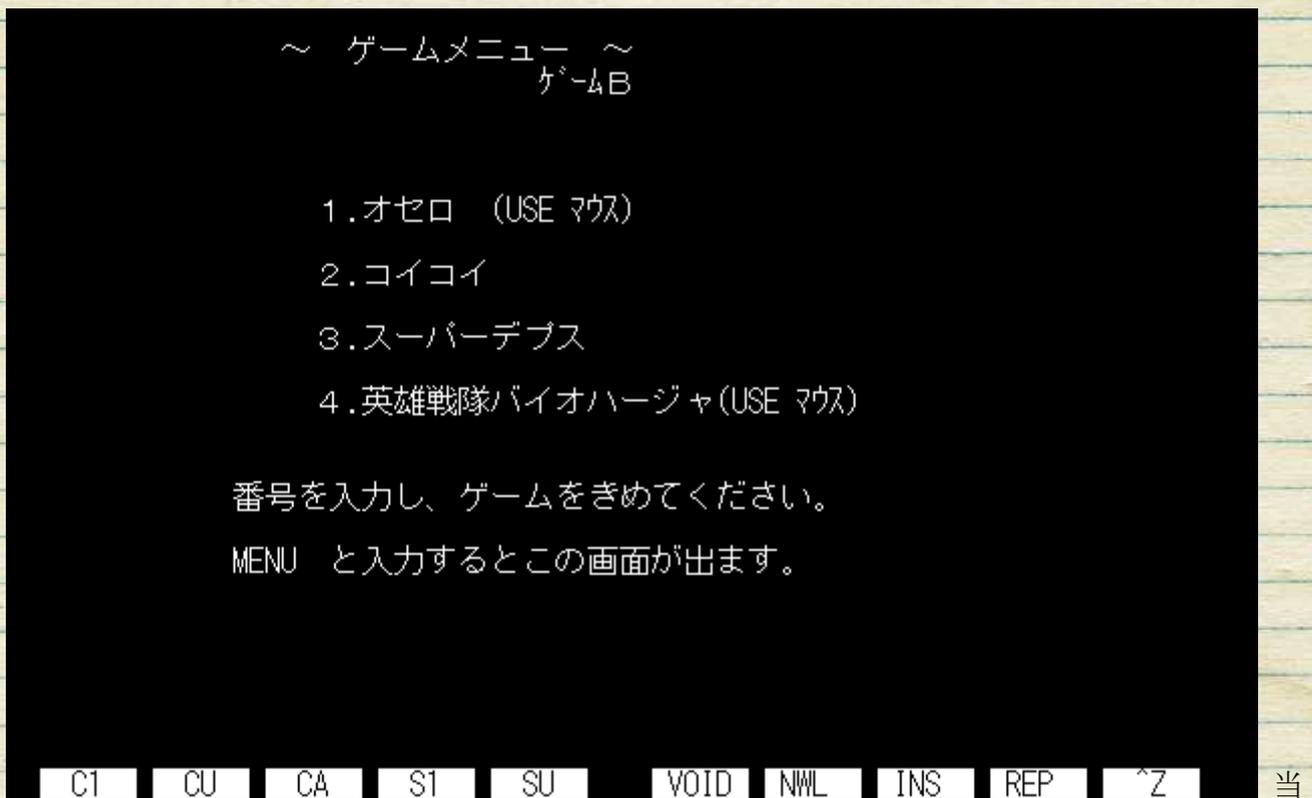
中学生時代、PC-98 パソコンの主な用途はゲームだった。とはいってもゲームソフトを買うのではなく、雑誌に収録されているゲームなどで、フリーソフトのゲームばかりやっていた。フリーソフトのゲームを手当たり次第やってみて、面白かったゲームは、パソコンのハードディスクやフロッピーディスクにひとまとめにしていつでもプレイできるようにしていた。

この頃は Windows が普及してきていたので、Windows 系のゲームもたくさんあったが、MS-DOS のゲームの方が何故が好きだったので、MS-DOS のゲームでよく遊んでいた。

面白かったMS-DOSのゲームをフロッピーディスクの中に整理していたがMS-DOSのゲームはコマンドで起動するので少し手間がかかる。また、マウスが必要なゲームはマウスドライバを組み込んだり、多くのメモリを必要とするゲームはメモリを確保させておいたりする必要があった。これもいちいちコマンドで設定する必要があるのでこれにも手間がかかる。

ワンタッチで事前の設定とゲームの起動の起動ができないかと思い、少しバッチの勉強をしてメニューを作った。

フロッピーディスクを起動ディスクにして、下の絵のように番号とゲームのタイトルを表示させる。ゲームの番号に対応したゲーム起動バッチ「1.BAT、2.BAT、・・・」を用意すればできあがり。



当時は、中学生くらいであまりパソコンの知識が無かったが、他のバッチを参考に勉強し、このメニューバッチができあがったときはとても感動した。クラスメイトからも「すごいね」と言われてうれしかった。

バッチコマンドは現在の Windows でも使用でき、パソコンやサーバでも利用する機会が多いので、このときに学んだバッチコマンドの知識は今でも役に立っている。